

Ⅲ 令和7年度の学校経営方針

1 本校の教育目標

豊かな心をもち、たくましく生きる生徒の育成		
自ら学び考える生徒	(知)	
誠実で豊かな生徒	(徳)	
健康でたくましい生徒	(体)	【平成23年改訂】
<校訓>		
自律	友愛	協力

2 経営の基本方針

【目指す学校像】～ 生徒と教師が日常的教育活動全般を通して、他者との関わりの中で主体性をもって共に学びに向かい、ウェルビーイングを実現する学校を目指す

本校において未来を生きる生徒の育成に向け、経営のマネジメント機能を活用し、本校が目指す生徒に身につけさせたい「資質・能力」を育む。そのためには、義務教育9年間を通した教育課程の編成をはじめ、その実践に取り組むと共に、「学校経営10の指標」を基にした検証改善サイクルを通して、教科横断的な視点で効果的な改善を進める。また、学校生活全般において、他者と関わりながら、共に学び、人間性を涵養する教育を実現する。そのためには、学校に集う生徒と教師が共にウェルビーイングを確保し、共に学び、生活する場としての学校の価値を最大化する必要がある。そこで、目指す学校像として「ウェルビーイングを実現し、生徒と教師が日常生活から、共に学びに向かう学校」を掲げ、「魅力ある学校づくり・授業づくり」を推進することを学校経営の基本方針とする。

3 育成を目指す資質・能力の重点（小・中共通）

これまで教育目標の具体として掲げられていたキーワードを「義務教育9年間で目指す子ども像」として再構築し、育成を目指す資質・能力の視点で整理した。

【義務教育9年間で目指す子ども像（15歳の姿）】

他者を肯定的にとらえ 自己有用感をもって 夢・目標に向かって行動する子ども		
○基礎的・汎用的能力	○逞しき・レジリエンス	○自分を大切にする姿勢・自己指導能力
○情報活用能力・コミュニケーション能力	○共感と寛容性	○郷土を愛する心
実際の社会や生活で生きて働く <u>知識及び技能</u>	未知の状況にも対応できる <u>思考力・判断力・表現力</u>	学んだことを人生や社会に生かそうとする <u>学びに向かう力・人間性</u>

1 本年度の重点教育目標

(1) 愛別町の状況

本町は平成22年に小学校3校が統廃合され、小学校、中学校それぞれ1校の配置となっている。北海道の地域創生が叫ばれる中、本町も人口減少と高齢化が進み、教育行政に関わっても抜本的な見直しを図る時期が来ている。こうした中、令和2年度から5年計画の愛別町教育振興基本計画が策定され、幼・小・中・あいべつ校において愛別町連携教育推進委員会を軸に学校間の円滑な接続・連携が進められた。さらに、令和10年度には小・中学校を統合して新たに義務教育学校を開校することが決定し、令和7年度から愛別町教育振興計画の第2次計画に基づき教育活動を推進する。

(2) 生徒の状況と課題

地域・保護者の協力に支えられ、多くの生徒が仲間や教員との良好な人間関係を基盤に、素直で元気に学校生活を送っている。学校評価アンケートの結果などから、道徳モラルも高く、ルールやマナーの遵守が集団の意識の中でしっかりと根づいている。一方で、人間関係の積年の軋轢が表面化した事例も散見され、不登校やいじめ問題などにつながるケースで現在も経過を見守るなど、生徒指導上の問題も散見される。また、本校の生徒は概ね、真面目に物事に対峙することには慣れているが、幼少期からの人間関係が固着し、自分の感じ方や考え方にとらわれ、相手を尊重しきれないことに起因する衝突も見られる。これは学習においても、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶことについて苦手意識があり課題が残る。昨年度より生徒一人一人の主体性を重んじながらも、それと相対して他者の個性を受け入れるという「豊かな心（共感と社会性）」の醸成を生徒に育てたい資質・能力の重点として取り組んできたが、教育活動、特に学校行事などで、主体性に大きな成果は見られたが、学習活動を核とした教育活動全体の醸成に十分至っているとは言えない。このことから、昨年度に引き続き、生徒の主体性はもちろん、その上で他者を理解する「共感と社会性」に重きをおいて、本年度の重点目標を定めることとする。

<本年度の重点教育目標>

多様性を尊重し、自他ともに大切にできる生徒の育成

～広げよう **共感**の心 高めよう **社会性**～

◇本校においても学習に向かう意欲は一定程度あるものの、受け身の状況から打破できず、課題解決的な学習や主体的な学習の振り返り、また生徒同士の話し合いによる協働的な学びなどを苦手としている生徒も少なくない。生徒の活動場面においても、活動内容に充実感が得られず、生徒会活動や行事に意欲が持てない生徒も学校評価アンケートから伺える。「主体的・対話的で深い学び」の充実を学習意欲と生徒指導上の両面から、一人一人の生徒たちが主役となるアプローチが課題となってくる。自ら主体的に未来を切り拓いていく力や、他者に寄り添い共感する意識を高めるためには、正解主義

的、教師主導的、予定調和的な在り方以上に、生徒一人一人を主語にした学校教育活動の充実が求められている。そこで、今年度は「多様性を尊重し、自他ともに大切にできる生徒の育成」を重点教育目標に設定する。全ての教育活動の中で生徒たちの主体性を重視しながら、効果的に他者に共感し多面的・多角的な見方・考え方を身につける場면을意図的に組み込む。そのためにも「主体的・対話的で深い学び」の更なる充実を図る。

◇社会性について

<社会性の一般的な概念>

・広く社会に適応する資質（例：責任感・コミュニケーション力・協調性・社会的マナー・モラルなど）社会の一員として生きるために求められる総合的な資質。

●社会性が高まる姿（特徴）

・相手の気持ちを察した言動ができる

※上記の姿を、生徒の社会性を育む指標としたい

●社会性を育むためには

・幅広い価値観の人々と交流する機会を増やす

（連携教育の推進・地学協働・多様な活動場面での他者との関わり 等）

●組織的、計画的な取り組みの中での育成

2 本年度の経営の具体

○新 愛×愛プランより、自校の取り組みについて

（1）学力向上への取組

- 義務教育9カ年を見通したカリキュラムの編成・改善
- 学力・体力に関わる調査等の分析と、その改善策等の情報交流
- 家庭学習の定着、学習規律の系統化
- 授業改善に向けた交流
- 授業改善について研修機会の促進と充実

（2）体力向上・生活・安全への取組

- 新体力テスト等の結果の交流
- 校内・校外生活等、生徒指導上の連携
- 基本的な生活習慣の確立に向けた協力体制
- いじめ・不登校を町ぐるみで解消する取り組み
- 養護教諭の情報交換、健康管理に関わる協働
- 食育の推進（町行政との連携）

「豊かな心」育成の取組

- 幼・小・中・養護学校の交流事業や教員研修の充実
- 地域ボランティア活動（小・中）の推進
- 道德教育をはじめ、全ての教育活動において「共感」を通じた活動の推進
- 生徒会活動等で、生徒の主体性を育み、自他共に大切にする心を醸成する。

（３）地域連携の取組

- 愛別町の特色を活かした幼・小・中・あいべつ校の連携教育を推進する
- 令和 10 年度の義務教育学校開設に向け、開校準備委員会における 9 カ年を見通した教育活動の創造と小中連携・一環教育の強化を図る
- 地域・保護者や関係機関と連携し、地学協働の元、学校への協働体制を強化する

3 本年度の経営の重点と評価

（１）学校経営（適切な情報共有のもと、迅速かつ組織的な協働体制の遂行）

○学校評価を活かした学校改善

- ・教育活動後の反省の累積と、計画的な学校評価の実施（※PDCA サイクルの確立）
- ・学校運営協議会をはじめ、地域・保護者への学校評価公表による学校改善の実施

○学校経営参画意識の高揚（チーム学校の確立）

- ・「報・連・相」の徹底と、校内組織体制の迅速な運用の推進

（２）創意ある教育課程（カリキュラムマネジメントの確立）

○学習指導要領の趣旨を踏まえた、教育課程の編成・実施・評価・改善サイクルの充実（令和 10 年度の義務教育開校に向けた）

- ・小中連携および関連性・系統性を視点としたカリキュラムの編成と諸活動の見直し

（３）学級経営・生徒指導

○一人一人の居場所となる「学年・学級経営」の推進

- ・生徒理解と保護者との密接な連携を基盤とする学級経営の推進
- ・夢や希望を育むガイダンス機能や教育相談の充実

（４）学習指導・学習習慣

○学ぶ意欲を高め、確かな学力を育む「学習指導」の充実

- ・教育活動全般（特に全教科）で問題解決的な学習過程（個別最適な学びと協働的な学びの融合）の確実な実施と、多面的・多角的な評価の工夫（※評価項目の浸透性）
- ・一人一台端末の継続的な活用の促進と、実践効果の検証機会の充実
- ・TT や少人数の機能を活かしたきめ細やかな指導（習熟度別指導）と評価の充実
- ・2 週間単位の時間割作成の継続と、端末の持ち帰りを活かした授業以外での学習支援（学習支援教材ソフトの効果的な活用）

（５）研修（共に学び合う研修体制の確立）

○授業を核とした研修体制の充実

- ・一人一授業の公開（交流を核とした、学び合い機会を推進）

○研修会・研修機会の積極的な参加の奨励

- ・自己の専門性を高めるための研修機会の奨励
- ・校内研修等での積極的な外部講師の招聘および活用（Zoom 研修等）

（6）特別支援教育

○一人一人の教育的ニーズを捉え、成長を支える「特別支援教育」の充実

- ・ コーディネーターを窓口とした保護者や学校間および関係機関との連携
- ・ コーディネーターを核に、合理的配慮を基盤とした全校的な支援体制の継続
- ・ コーディネーターを中心に、定期的な担当者間交流と、全教職員への情報共有の充実

（7）体力向上・食育・健康教育・安全教育等

○健やかな身体を育む「健康・安全教育」の充実

- ・学校保健計画・学校安全計画に基づく指導の充実
- ・各教科と関連づけた教科横断的な「防災を含む安全教育」の充実

○食育の推進

- ・ 栄養教育推進担当教諭を中心に、食に関する知識と望ましい食習慣の育成

（8）道徳教育

○特別の教科「道徳」を要とする「道徳教育」の充実（道徳的实践力の育成）

- ・ 道徳教育推進担当教諭を中心に、全体計画や年間指導計画の改善
- ・ 道徳教育推進担当教諭を核に、多面的・多角的、簡便に継続可能な評価の工夫

（9）特別活動

○実践的な態度を育む特別活動の充実

- ・家庭や地域社会との連携を図った全体計画や年間指導計画の見直し
- ・求める資質・能力の共有を図った上での自然体験や社会体験の見直し

（10）総合的な学習の時間

○学び方や考え方を身につけ、探求する力を育む「総合的な学習」の充実

- ・育てたい資質・能力を明確にした目標の設定及び全体計画の見直し
- ・見直し後の目標の実現状況や、見取る評価の在り方を改善

（11）キャリア教育・進路教育

○望ましい勤労観や職業観を育む「キャリア教育・進路指導」の充実

- ・発達段階に応じたキャリア教育の推進
- ・各教科等と関連させた横断的な進路全体計画や年間指導計画の改善
- ・ キャリアノートの効果的な活用

生徒の資質・能力の成長の見取りと、学年間や校種間での適切な引き継ぎ

（12）文化・図書・情報活動

○学校図書館の継続した蔵書整備と、落ち着きのある機能的な環境の維持